

新宿区

UD

まちづくり ニュースレター

Vol.
05
SUMMER

第5号
2022.06

UDスポット SOMPPO美術館 そんぽびじゅつかん

世界的に有名な絵画であるゴッホの『ひまわり』の一つが、新宿にあることをご存知ですか？

SOMPPO美術館は、損保ジャパン本社ビル42階から場所を移し、2020年7月に新しくオープンしました。出入口の前には、美術館のシンボルである『ひまわり』を忠実に再現した陶板画（とうばんが）が設置されており、誰でも触ってアートを体感することができ、館内は明るく広々としていて、誰にとっても使いやすく居心地の良い空間です。

そのほかにも、館内にはユニバーサルデザインの考えを反映したポイントがいくつもあります。第5号では、生まれ変わったSOMPPO美術館のユニバーサルデザインについて取材しました。

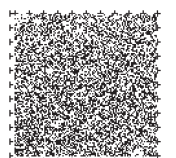
ユニバーサルデザイン

UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの方が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の実践や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



Uni-Voice

SOMPO 美術館

Sompo Museum of Art

反射しにくい
ガラス

UD探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット



手で触れられる

絵具の凹凸まで
忠実に再現

カーペット敷きの床は、
静かで滑りにくい

2つの『ひまわり』

見て、触れて、体感できるアート

ゴッホの『ひまわり』の展示には反射しにくいガラスが使用され、小さい子どもや車椅子ユーザーも鑑賞しやすい高さに設置されています。美術館の出入口前には本物を忠実に再現した陶板画(とうばんが)が設置され、触れることで絵具の厚みを体感できます。

Good さ
UD
ポイント

柔らかい床材

屋内展示室にはカーペットが敷かれ、静かで疲れにくく、雨の日にも滑りにくい配慮がされています。

Good さ
UD
ポイント

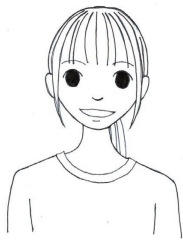
利用者コメント



最近配信で観た映画に『ひまわり』が出てきたので、友人と一緒に本物を見に来ました。入口の陶板画は凹凸があって、触ってみると面白かったです。展示室では、絵を近くから見る事ができて満足できました。(30代・男性・2人組)

利用者コメント

インターネットで今回の展覧会のことを知って、初めて来ました。展示室の入口が自動ドアで、動線がスムーズでした。この美術館全体も、きれいでいいなと思いました。(20代・女性)



利用者コメント

友人に誘われて初めて来たのですが、2階は窓が多くて明るいし、天井も高く気持ちいいですね。有名な『ひまわり』を実際に見れて良かったです。(30代・女性)



2F ショップ & 休憩スペース

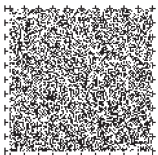
大きな窓から明るい光が差し込む

ゆっくり休める
広々スペース

Good さ
UD
ポイント

まちとつながる休憩スペース

展示室から降りてくると、木材をふんだんに使った開放感のある場所でのんびり過ごせます。(チケットがなくても外から自由に利用できます。)



Uni-Voice

1F ロビー

開放的でどこからでも見える受付

椅子やベンチがあってひと休みしやすい

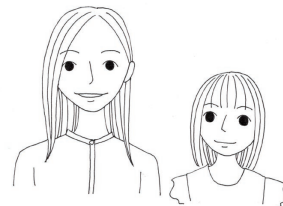
Good
UD
ポイント

外からよく見える玄関ロビー

明るく開放感のある空間に、椅子や腰掛けがたくさん置かれていて、ひと休みにも入館準備にもとても使いやすい場所となっています。

利用者コメント

インターネットで今回の展覧会の情報を知りました。展示室は広々としていて見やすかったですが、各階の移動に階段を使いました。エレベーターの案内がわかりやすいといいなと思いました。
(40代・女性・親子2人組)



利用者コメント

もう5回ほどここに来ています。オープン当初と比べると、より見やすく、より使いやすい美術館になってきていると感じています。これからも、今よりさらに良くなっていくといいですね。
(60代・女性)



運営者インタビュー

SOMPO 美術館は、損保ジャパン本社ビルの42階から、地上に新たに建設した建物へと場所を移し、2020年7月にオープンしました。その際、美術館の名前も「東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館」という長い名前から、現在の「SOMPO 美術館」というシンプルで覚えやすい名前に変更し、新たな一歩を踏み出しました。

もともと SOMPO 美術館は、美人画で有名な画家の東郷青児から作品の提供を受け、1976年に設立されました。そのため、新しい美術館の外観には東郷青児の絵を想起させる曲線を取り入れ、優美でスタイリッシュなデザインにしました。外観以外にも、ロゴやフラッグ装飾など随所に東郷青児の要素をちりばめています。

美術館の内部は居心地の良いゆとりのある空間となっています。1階のロビーと2階のショップ・休憩スペースには、曲線を描く大きな窓から明るい光が差し込みます。床や天井に木材を多く使った空間は、訪れた人に安らぎを与えてくれるので、展示を見終わった後の休憩にぴったりです。

保険会社である損保ジャパンが所有する美術館として、SOMPO 美術館は安心・安全でバリアフリーな建物となるように設計されています。建物は頑丈で災害に強く、トイレやエレベーターなどの館内設備はユニバーサルデザインを意識して作られています。車椅子の貸出や、車椅子ユーザーのために駐車スペースの提供も実施しています。また、館内のエレベーターはゆとりのある作りなので、コロナ禍で密を避ける傾向にある現在のニーズとマッチしており、多くの方からご好評をいただいています。来館者の方々からはアンケート等を通じてさまざまな意見や感想が寄せられており、それらを反映させてハード面・ソフト面ともにより良いものになるよう日々改善を図っています。

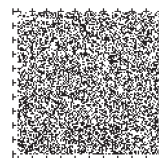
損保ジャパン本社ビルの42階に美術館があったころは、来館者は比較的高齢の方が多かったように感じます。独立した美術館として地上に新規オープンすることで、来館のハードルが下がり、より幅広い層の方々を訪れることを想定していました。実際に、オープン後は若い世代や家族連れの方々の来館が増えました。SNSでの情報発信に力を入れていることも影響しているでしょう。来館者全体としては女性が多いですが、若い男性が一人で来館されることも増えており、変化を感じています。

当館はアジアで唯一、ゴッホの『ひまわり』を常設展示している美術館です。当館の誇りである『ひまわり』が、この新宿という街にあることをもっと多くの人に知ってもらえるように、油絵具の厚みや筆の跡まで本物を忠実に再現した陶板画を美術館の入口前に設置しました。『ひまわり』に実際に触れて、作品が持つ魅力や迫力を感じることが出来ます。

SOMPO 美術館は、新宿西口のアートランドマークとして、幅広い世代に美術や芸術を発信することを目標としています。そのために、新進作家への支援や、区内の小中学校への美術鑑賞体験の提供など、さまざまな取組みを積極的に実施しています。SOMPO 美術館の存在をさらに多くの方に知ってもらい、幅広い世代が気軽に訪れる美術館となることを目指して、今後も積極的に発信していきます。



SOMPO 美術財団 事務局長
太田さん



Uni-Voice



インクルーシブなユニバーサルデザインへ



東京大学 経済学研究科
特任研究員
丹羽太一 さん

(今回のコラムはUDに詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

まちは、人間社会の基盤を支える社会的インフラストラクチャーです。経済学者宇沢弘文は「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を継続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」を社会的共通資本と呼び、それらが果たしてきた社会的、経済的な役割を考えると、その目的が達成され、持続的な経済発展が可能になるための制度的前提条件を考えました。

安定的かつ持続的な教育、医療・介護などの制度資本の充実と、まちの住環境としての社会的インフラストラクチャーの整備においては、社会的安定性、公正、平等という社会的基準を基に考えた、包摂的（インクルーシブ）なまちづくりが実現されなければなりません。

インクルーシブなまちづくりとは、ユニバーサルな、つまり多くの人が住みやすいことに加え、それでもバリアを感じている人がいるときに、より多様なひとりひとりの意見を聞きながらデザインを進化させ、どんどんまちづくりに活かしていこう、というものです。

イギリスでは、障害者・高齢者などがさま

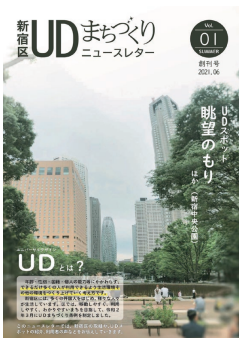
ざまな活動に参加しやすい地域づくりのために、実際にその人たちが参加するインクルーシブな手法によるバリアフリー化を進めるLIFETIME NEIGHBOURHOODS（ライフタイム・ネイバーフッズ）の考え方が進んでいます。ロンドンの地域づくりでは、それぞれの地域の特徴を反映し、魅力的なデザインにしながら、彼らの意見を聞いて建物や道路、公園などの施設や設備をわかりやすく、移動しやすいものにしていきます。バリアフリー法改正に基づいて区が策定する移動等円滑化促進方針により区全域が移動等円滑化促進地区となった新宿でも、多様な人たちの地域での自立のために、それぞれがその能力に応じて地域で社会的なあらゆる活動に参加できるように、さまざまなひとが参加できるインクルーシブなUDまちづくりの実践を通して、バリアフリー化をさらに具体化していかなければなりません。



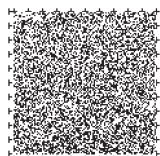
インクルーシブ・デザインで改修されたロンドンのエキシビション・ロード

ニュースレターの「バックナンバー」を是非ご覧ください！

これまでのUDまちづくりニュースレター（創刊号～第4号）は、新宿区のHPからPDFファイルで閲覧できます。新宿区内の公園や広場などの紹介のほか、UDについてのコラムも掲載しています。



新宿区からのお知らせ



Uni-Voice

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第5号（令和4年6月発行）

お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課

取材・編集：(株) 菫まちづくり研究所